

## 鑑定評価書（令和7年地価調査）

令和7年7月4日提出

町田(都)5-3 宅地-1

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	不動産コンサルティングなどの事務所
町田(都)5-3	東京都	多摩第3	氏名	不動産鑑定士 柳野 恵一
鑑定評価額	182,000,000 円		1㎡当たりの価格	446,000 円/㎡

## 1 基本的事項

(1)価格時点	令和7年7月1日	(4)鑑定評価日	令和7年7月2日	(6)路線価	[令和7年1月] 路線価又は倍率	320,000 円/㎡
(2)実地調査日	令和7年6月27日	(5)価格の種類	正常価格		倍率種別	倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

## 2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		町田市原町田四丁目1 3 1 番2 「原町田4 - 1 6 - 2 1」				地積 (㎡)	408 ( )	法令上の規制等						
	形状	敷地の利用の現況		周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給 処理施設 状況	主要な交通施設との 接近の状況		近商 ( 80, 400 ) 防火					
	1:1	店舗、事務所兼住宅 R C 3		小規模飲食店等が建 ち並ぶ近隣商業地域		南東9.5m市道、 南西側道	水道、 ガス、 下水	町田 670m		(その他) 駐車付置義務 ( 100, 400 )					
(2) 近隣地域	範囲	東 110 m、西 10 m、南 30 m、北 30 m					標準的使用	中層店舗付共同住宅地							
	標準的画地の形状等		間口 約 20 m、奥行 約 20 m、規模		400 ㎡程度、形状 正方形										
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない。		街路	9 . 5 m市道	交通施設	町田駅 北東方670m		法令 規制	近商 ( 100, 400 ) 防火 駐車付置義務				
	地域要因の 将来予測		近隣地域は、小規模飲食店舗等が建ち並ぶ近隣商業地域であり、駅徒歩圏でもあることから今後も利便性の良い商業地域としての特性を維持し、地価水準は上昇傾向で推移していくものと予測する。												
(3) 最有効使用の判定	中層店舗付共同住宅地						(4) 対象基準地の 個別的要因	角地				+3.0			
(5) 鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法		比準価格					478,000 円/㎡							
	収益還元法		収益価格					295,000 円/㎡							
	原価法		積算価格					/ 円/㎡							
	開発法		開発法による価格				/ 円/㎡								
(6) 市場の特性	同一需給圏は町田市内及びＪＲ横浜線、小田急線沿線、京王線等の駅周辺近隣商業地域及び商業地域等である。主たる需要者は、収益物件として取得する一般事業者及び投資家や不動産業者等のほか、マンション開発業者も想定される。町田駅からやや距離があるため繁華性はやや劣るが、駅徒歩圏に立地することによる希少性が認められるエリアであり相応の需要が認められる。立地、画地規模、建物品等により価格に差異があり、中心価格帯の把握は困難である。														
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	商業地域の取引は限定的で、比準価格は隣接市含め広範囲の取引事例を収集、選択し、各事例地との要因格差等補修正には留意し、対象基準地の市場性を反映した信頼性の高い価格が試算された。収益価格は投資採算性を反映した理論的な価格であり、賃貸市場は成熟しているものの、試算過程に想定要素を含む。したがって、本件ではより市場実態を反映した比準価格を重視し、収益価格も比較考慮し、標準地等との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。														
(8) 公示価格とした	代表標準地	標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の標準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路	0.0	地域要因	街路	-4.0		
	標準地番号 町田5-12								交通	0.0		交通	+7.0		
(9) 指定からの検討	公示価格		[ 103.0 ]	100	100	[ 103.0 ]	448,000	標準化補正	環境	0.0	行政	環境	+14.0		
	445,000 円/㎡		100	[ 100.0 ]	[ 105.4 ]	100			画地	0.0		行政	-10.0		
									行政	0.0		その他	0.0		
									その他	0.0					
(10) 対象基準地の検討	指定基準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円/㎡)	内訳 標準化補正	街路	0.0	地域要因	街路	0.0		
	町田(都)5-7								交通	0.0			交通	+3.0	
	前年指定基準地の価格		[ 104.6 ]	100	100	[ 103.0 ]	444,000		環境	0.0		環境	-10.0		
	306,000 円/㎡		100	[ 100.0 ]	[ 74.2 ]	100			画地	0.0		行政	-20.0		
(10) 対象基準地の検討	-1 対象基準地の検討				価格変動要因の形成要因の	[ 一般的要因 ]	利便性の良い不動産の需要は根強い。建築費等物価上昇による金利上昇懸念があり、不動産需給に与える影響に留意する必要がある。								
	継続 新規						[ 地域要因 ]	駅徒歩圏の近隣商業地域であり、マンション等共同住宅の用途としての需要も見込まれ、地価は上昇傾向にある。							
	前年標準価格		423,000 円/㎡					[ 個別的要因 ]	個別的要因に変動はない。						
	-2 基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討														
(10) 対象基準地の検討	代表標準地		標準地												
	標準地番号														
(10) 対象基準地の検討	公示価格		円/㎡												
	変動率	年間	+5.4 %	半年間	%										